



1、はじめに

本園は、園歌のとおり、緑の葉が光り揺れる樹木や草花の豊かな「みどりの高輪幼稚園」であり、園児が季節の移ろいを身近に感じることができる。港区教育ビジョンを見据え、幼児が園庭の樹木のようにしっかりと育つために、主体的で体験的な活動を積み重ね、生きる力の根っこを育みたい。「わくわく ぽかぽか みんな笑顔の高輪幼稚園」を経営のキーワードとして計画的な経営を行い教育の充実を図る。

港区教育ビジョン

基本理念 「すべての人の 学びを支え つなぎ 生かす」

目指す人間像 「生涯を通じて夢と生きがいをもち、自ら学び、考え、行動し、未来を創造する人」

基本的方向性 ①「徳」「知」「体」を育む学び ②生き抜く力を育む学び ③生涯を通じた学び

④地域社会で支えあう学び ⑤つながり、伝え、循環する学び

2、教育目標

「やさしく、かしこく、たましく、伸びる高輪の子」

やさしく …他人への思いやり、協同の精神や人権尊重の精神、社会生活における望ましい習慣や態度を育む

かしこく …確かな学力につながる言葉の獲得や考える力、表現する力を培う。

たくましく…健康・体力につながる生活習慣の確立と進んで運動しようとする態度を養う。

伸びる …自ら伸びようとする主体性、積極性、意欲を養う。

園経営における中期的目標と方策

(1) 子どもも大人も、安心して自己を発揮できる環境づくり (環境による教育)

- ① 幼児が自ら環境に働き掛け、主体的に遊びや生活を創り出す環境を整える。
- ② 環境整備や安全対策、情報の管理を徹底し、安全を確保し、園務などの効率を高める。
- ③ 保護者が子育てや幼稚園生活を楽しめるよう情報発信を行い、連携を円滑に進める。

(2) 確かな保育理念・理論と実践力を備えた教師集団づくり (教育は人なり)

- ① 乳幼児期から青年期までの発達を踏まえ、将来を見据えた幼児教育の充実を図る。
- ② 進んで協働できる教職員集団を伸ばし、研修・研究を充実させ、専門性を高める。
- ③ 幼児と教師との応答的な関係性を大切にし、幼児と共に園生活を創り出す教育を推進する。
- ④ 教師は、主体的に学び、感性を磨き、力量を高めようとする姿勢を確立する。

(3) 高輪幼稚園ならではの質の高い教育の創造 (地域の幼稚園)

- ① 緑豊かな園内外の自然環境を生かした豊かな遊びや生活が展開できるよう、創意工夫し、魅力ある教育内容の充実を図るとともに自然への畏敬の念を育む。
- ② 「歴史ある高輪」「新しい時代の高輪」の特性や花いっぱい運動などにおいて地域に親しんだり、保育園・小中学校や高等学校の人々と関わったりする機会を大事にし、心温まる体験を積み重ね、感謝や憧れの気持ちを醸成し、地域で育ち合う喜びを感じさせる。
- ③ 園内での異学年交流や未就園児との関わりを通して、相手の立場になって考えたり行動したりする経験の中で思いやりの心を育てる。

3、教育目標を実現する目指す幼稚園像

経営のキーワード わくわく ぽかぽか みんな笑顔の高輪幼稚園

「わくわく」

充実した園生活の中で子どもも大人も心を弾ませて学び合い、互いに成長する。

- ・ 幼児が「幼稚園が楽しい」[先生大好き、友だち大好き]と毎日、心を弾ませて通い、主体的で体験的な遊びや生活を通して、子どもが成長する幼稚園
- ・ 教師が子どもの育つ姿に喜びを感じて保育を行い、日々学び、向上していく幼稚園
- ・ 保護者や地域の方々が、教育を信頼し、子どもの育ちを期待して協力する幼稚園

「ぽかぽか」

互いの良さを認め、心を温め合いながら子どもも大人も成長する。

- ・ 幼児が、教師や保護者から心を温める言葉や行動で応援され、支えられて育つ幼稚園
- ・ 幼児同士、教師と保護者、保護者同士、教師同士が良さを認め、心を温め合いながら互いに成長する幼稚園

「みんな笑顔の高輪幼稚園」

子どもも大人も笑顔や活力を地域に発信し、地域とともに成長する。

- ・ 幼児が地域や高松アカデミーなどで、様々な人との関わりや体験を通して育つ幼稚園
- ・ 教師や保護者が教育の充実のために生き生きと行動する姿を見せ、子どもにとっての憧れとなる幼稚園
- ・ 安全管理や整理整頓、清潔が行き届いた安心、安全な幼稚園。

(1) 直接的な体験を重視した教育

- 幼児が自ら環境に働き掛け、主体的に遊び、生活する教育を展開し、思考力、人と関わる力、生活する力を育む。
- 緑豊かな園内外の自然環境を生かし、生き物や植物と触れ合いながら、豊かな遊びや生活を展開する教育内容の充実を図るとともに自然への畏敬の念を育む。
- 異学年交流や未就園児とのかかわりなどを通して、相手の立場になって考えたり行動したりする思いやりの心を育てる。
- 高松アカデミーの小中学校、保育園、高校、消防署、警察署、児童館、商店、寺社などの方々と直接触れ合う機会を大事にし、心温まる体験を積み重ね感謝や憧れの気持ちを育む。
- 地域探検活動では、歩く距離を徐々に伸ばし、長い距離を歩く体力や持久力を身に付け、健康な心と体を育成する。

(2) 就学を見据えた計画的な教育

- 港区版「小学校入学前カリキュラム」育てたい3つの力「生活する力」「発見・考え・表現する力」「かかわる力」を育むために、「たかなわの子ども」(下記参照)を幼児、教師、保護者に浸透させ、3年間の発達を踏まえ、就学に向けて体験的な活動を積み重ねながら育ちを支える。

「たかなわの子ども」 就学を見据えて3年間の幼稚園教育の中で様々な力を育み、充実感味わわせる。

たのしく、かっこよく、なかよく、わらって(笑顔)生活し、遊ぶ子ども

たのしく

- ・ 環境に働きかけて自分がやりたいことを実現する、考え工夫する、表現する、身体を動かすなどの楽しさ感じながら遊び、集中して最後まで取り組めるようになる。

かっこよく

- ・ あいさつをする。(おはようございます ありがとう ごめんなさいなど)
- ・ 自分で考えて行動し、自分のことが自分できるようになる。
- ・ 人の話をきちんと聞き、自分の思いを言葉で伝えられるようになる。
- ・ 幼稚園の約束や社会生活のルールを守ることができるようになる。

なかよく

- ・ 生活したり遊んだりするなかで人と関わることを楽しむ。その中で相手の気持ちを考えたり、自分の気持ちを調整したりできるようになる。
- ・ 自分を大切にするとともに相手の良さや多様性を認められるようになる。

わらう

- ・ 先生や友だちと一緒に遊びや生活を作り出す楽しさを感じ、充実感や満足感を味わい、笑顔で過ごす。

- 教師は、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(①健康な心と体、②自立心、③協同性、④道徳性・規範意識の芽生え、⑤社会生活との関わり、⑥思考力の芽生え、⑦自然との関わり・生命尊重、⑧数量や図形、標識や文字などへの感心・感覚、⑨言葉による伝え合い、⑩豊かな感性と表現)を常に意識した指導と環境構成の工夫を行う。また、保護者や地域へも具体的な子どもの姿を発信し、連携しながら子どもの成長につなげていく

(3) 学び続ける教職員

- 幼児一人ひとりと教師との応答的なやり取りを大切にしながら信頼関係を築き、体験を重視した教育を展開しながら個々の育ちと学級集団の育ちを重ね合わせる学級経営を行う。
- 教職員は、経営計画を理解し、自己申告やキャリアプランを活用し、1年間の具体的な目標と方策をもち、「チャレンジ精神」を忘れず、仕事に取り組み、自己研鑽に励み常に教師として、人として学び続ける。
- 幼児の実態に即した新たな教材開発や環境設定を積極的に工夫する。充実した教育内容にするために改善したり、工夫したりすることを喜びとし、既存の指導計画に常に修正を加えながらより良い教育を目指す。専門性を高めるために進んで研修に参加し、その成果を教職員全員に伝えて意識を高め、さらに保護者や地域にも発信する。
- 指導計画は、教育要領と照らし合わせて計画、実践、振り返りを行い、教育の充実に努める。
- 園内の環境を生かし、幼児が直接的に自然に関わる活動を多く取り入れ、幼児が諸感覚で感じる体験を積み重ねながら感性を磨いていけるようにする。また、保護者も一緒に体験したり、情報を共有したりしてその活動の価値や楽しさを感じられるようにする。
- 教職員が危機管理意識を高めるために生活安全、防災、アレルギー対応、情報管理について研修を積み重ね、日常的なチェック体制を確立し、幼児も保護者も安心して生活できる危機管理体制を整える。
- チーム高輪として、教職員全員が互いの良さを認め合いながら育ち合い、学び合う姿勢を基本とし、思いやりに溢れた温かい協同体として結束する。また教職員一人ひとりの持ち味を発揮し、それぞれの立場で幼児が育ち合うために支援する体制を強化する。

(4) 保護者との連携による教育

- 保護者会や学級懇談会では、幼児の育ちを発信する他に適時的なテーマから保護者同士が対話したり、情報を共有したりする機会をつくり、保護者が安心して子育てができるようにする。対面式のみではなく、オンラインも活用し、各家庭が参加しやすい方法を工夫して行う。
- 高輪だより、学級通信などをコドモンでの配信を活用して行い、行事の趣旨や幼児の育ちを伝え、幼稚園と家庭との園教育での連携が円滑に進むようにする。
- 高輪タイムや参観の際に保護者が園生活や遊びに参加する機会をつくり、幼児とともに活動することで、幼稚園教育を理解する。また、我が子以外の幼児の個性や多様性を理解して全ての子どもを見守り育てようとする大人の意識を醸成していく。
- P T A活動などを通して、地域の子育て仲間としての関係づくりを図る。子どもの発達や子育てに関する講演会や保護者同士が対話する機会を工夫し保護者同士の育ち合いを支援する。

(5) 地域とともにある教育

- 地域の主要な活動である「桂坂を花いっぱいにする活動」「幼稚園も花いっぱいにする活動」を教育課程やP T A活動に位置付ける。園児、教師、保護者の協同作業として地域とともに進め、親睦を図りながら園舎内外の美化や緑化を行う。また、赤十字活動として人の役に立つ喜びが味わえるようにする。
- 地域探検活動では、自分たちの住む地域のことを知ったり、親しんだりする機会とし、高輪台小学校校庭でのランランタイムの活用では、幼児の体力向上を目指し、小学校に親しむ機会とする。
- 高松アカデミーとして中学校や小学校、保育園との交流を行い、互惠性をもったねらいを明確にして計画し、その交流の充実をはかる。実践後の省察を共有し、より良い交流につなげる。
- ホームページやTwitterの更新を持続し、園内外に教育の内容や幼児の育ちを伝え、人格形成の基礎を培う幼稚園教育の理解と重要性を発信する。

4、今年度、重視する取組の目標と方策

(1) 自然との直接的な体験を重視した教育

園内研究の主題を「幼児の豊かに感じる心を育むための教師の援助－わくわくがいっぱいの自然との関わりを通して－」とした。研究を進めることで教員の指導力の向上を図ることはもとより、園内の自然環境の改善を継続し、生き物や栽培物との直接的な関わりを通して、幼児に科学的な思考を芽生えさせ、感性を育み、自然への畏敬の念を涵養していく。加えて、教員自身の感性を磨くために、幼児とともに自然に関わり、幼児と一緒にその楽しさや喜びながら研鑽に励み自身の資質向上につとめる。

(2) 日常的な運動遊びの計画的な実施

- ・日々の保育の中で運動的な遊びを重視し、園内外での運動的な遊びの指導計画を改善し、幼児の体力向上を図る。
- ・タグラグビーを継続し、幼児が専門的な指導を受けながら運動する楽しさを味わう。それとともに教師が運動的な遊びの指導を学ぶ機会とする。

(3) 就学前教育の充実

- ・就学における各学年の発達に応じた指導計画を作成し、その実践における幼児の育ちの様子を保護者に発信し、就学につながる観点から説明を行い、保護者の理解を深める。とくに、コミュニケーション（自らの思いや考えを他者に伝える）能力を高める指導を行う。
- ・就学前に英語に親しむ時間として、NTによる「Hello English」を開始する。幼児が異文化を身近で感じたり、多様性の理解を深めたりすることを重視した楽しい活動の中で、英語に親しんでいく。また、母語である日本語の言語能力を高める指導にも重点を置く。

(4) 地域とともにある幼稚園

- ・コロナ禍以前の中学校、小学校、保育園などとの交流をできるところから復活し、幼児、児童、生徒が互惠性のある活動を実践し、様々な活動の中で、互いを思いやる心や、憧れを形成していく。
- ・桂坂を花いっぱいにする活動、高輪ゲートウェイ駅との交流を継続し、幼児が自分の住んでいる地域に親しみをもちながら活動する中で役に立つ喜びを感じ、自己有能感を醸成していく。

(5) 未就園児の会の充実

- ・月2回程度行っていた未就園の会を毎週1回実施（4月、3月、長期休業日を除く）し、園長、主任の出番や園児との交流の場を設けて内容を充実させながら幼稚園教育の理解が深まるようにする。特に令和5年度入園児は3歳児と一緒にする活動も取り入れ、より園生活を身近に感じる時間をつくる。
- ・子育ての相談の場を設けるなどして、子育て支援の場としての機能を高める。
- ・午前保育を除く毎日11:30～12:00の園庭開放を行い、日常的に地域の未就園児が遊び場として活用しながら、幼稚園に親しめるようにする。

(6) オンラインを併用した保護者会等の開催や発行物の配信による教育内容の周知

- ・保護者会、講演会などのオンラインの活用や動画配信を行い、弟妹（未就園児）のいる家庭や仕事を持っている保護者が参加しやすい形で行い、幼児の育ちや園からの連絡が周知できるようにする。

(7) 感染症対策の継続

- ・保育中における手洗い、マスク着用、ソーシャルディスタンス、黙食の指導と保育環境での換気、消毒の継続を行う。
- ・保護者への家庭での健康観察や感染症対策の理解と協力の依頼を継続する。

(8) 教職員による「チーム高輪」のより一層の連携

- ・令和4年度から幼稚園用務と保育補助職員の委託化が始まる。今までと同様に教職員一人ひとりの持ち味を生かし、お互いを認め合いながら温かい関係性の中で、幼児の成長を願い一人ひとりが努力する教職員集団を確立する。

(9) 高輪幼稚園SDGsの取組

- ・みなエコでの取組を「幼児期にものや自然物を大切にする心を育む」とし、幼児が、自分ごととして、「もったいない」「3R」を意識できるよう教師が取組の工夫や実践を日常的に行い、未来の社会への夢や期待を膨らませていく。

(10) 教職員の働き方改革

- ・ICT環境の活用などによる園務の効率化、幼稚園教職員の業務分担の改善を図り、教職員が互いに助け合いながら、全員が「ワークライフバランス」を保ちながら公私ともに充実した生活ができるようにする。特に仕事への「やりがい」を感じ、自身の目標に向かって業務に携わる時間に「しあわせ」を感じられるような組織運営とチーム高輪の充実図り、園の教育の質を向上させる。

＜働き改革 高輪幼稚園の取組目標＞

- ① 業務時間終了後は、原則定時（午後５時）退勤とし、遅くとも、午後７時には退勤することを目安とします。
- ② 週に１日「定時退勤デー」を設定します。
- ③ 長期休業中は、２週間程度の閉庁期間を定め、それ以外の勤務日は定時退勤を厳守します。

- ・業務の効率化を図るために、計画的な時間運用、時間厳守、的確な優先順位決定、個人業務の集中時間の確保と環境づくりを行う。またチームとして協働することを念頭に置き、声を掛け合って温かい連携で効率化を図る。

＜保育終了後の基本的な業務計画＞

14:00	14:15	15:00	16:30	17:00	19:00
降園時連絡	休憩 保育振返り 14:45 245 会議 *個人業務の共有	会議・全体作業等 個人業務集中時間	サポート保育降 園時連絡 日直業務完了	～ 退勤 ～ 目標 18:00 退勤	

*午前保育の場合の休憩時間は 12:00～13:00

*教職員一人ひとりが常に改革を意識し、考案したことをチームに発信しすみやかに共有し効率化を図っていく。